

【別紙 2】

地域生物多様性増進活動の手引き

生物多様性の価値



- この別紙では、生物の多様性の9つの価値について、その対象、サイト詳細シートにおける記載事項、維持タイプの場合に必要な添付書類を解説します。
- 活動の目標として選択した価値のページを参照いただくとともに、別紙3の記入例も参考としてください。

<補足1 解説の内容>

○対象

- 9つの価値それぞれが対象とするものについて解説しています。

○サイト詳細シートの記載事項

- サイト詳細シートのシート2「サイトの状況等」の「サイトの生物多様性の現況」に記載いただく事項を解説しています。

○添付資料（維持タイプのみ）

- 維持タイプの場合にのみ必要となる、添付2「生物多様性の現況」について、添付いただく資料の内容について解説しています。

<補足2 活動タイプの略称>

活動タイプによって記載事項等が異なる場合があるため、以下のとおり略称して解説します。

- 生物多様性の維持に資する活動 : 維持タイプ
- 生物多様性の回復又は創出に資する活動 : 回復・創出タイプ



公的機関によって、生物多様性保全上の重要性が既に認められている場 としての価値

○対象

- 本項の対象は、以下のいずれかの選定等を受けている場合とします。
重要里地里山・重要湿地・重要海域・特定植物群落・巨樹巨木林
(注) 回復・創出タイプの場合には、本項は対象外となるため、他の生物多様性の価値を選択してください。

○サイト詳細シートの記載事項

- 活動の目標として本項を選択した場合には、サイト詳細シートの該当ページ（サイトの生物多様性の状況）に以下についてご記入ください。
 - 選定されている制度名
 - 選定理由や内容
- 複数の制度によって選定されている場合には、番号を付すなどして「制度名」と「選定理由や内容」の対応が分かるようにご記入ください。
- このほか、実施区域の写真（価値1については、例えば、当該制度に選定された理由となったものの写真）が必要です。写真番号、撮影年月、説明とともに該当ページの右欄に添付してください。また、撮影位置を「6. 写真の撮影位置」に示してください。

○添付資料（維持タイプのみ）

- 実施区域が本項の価値を既に有しているか確認するため、添付 2 「生物多様性の現況」として下表の資料を添付してください。なお、添付資料として、特に長文にわたる資料を用いる場合には、サイト詳細シートの該当欄に、対応箇所や該当ページを示すようにしてください。

添付資料の内容	様式
<p>➤ 区域が当該選定等を受けていることが分かる資料（Webサイトの写し等）</p> <p>区域が当該選定等を受けていることが分かる資料は、以下のWEBサイトで確認可能です。</p> <p>重要里地里山： https://www.env.go.jp/nature/satoyama/senteichi_ichiran.html</p> <p>重要湿地： https://www.env.go.jp/nature/important_wetland/</p> <p>重要海域： https://www.env.go.jp/nature/biodic/kaiyo-hozen/kaiiki/index.html</p> <p>特定植物群落・巨樹巨木林： http://gis.biodic.go.jp/webgis/</p>	自由



原始的な自然生態系が存する場としての価値

○対象

- 本項の対象は、以下のいずれかに該当する場合とします。
 - a. 自然林（※1）、自然草原（植生自然度 9, 10（※2）を参考のひとつにできる）
 - b. 上記以外で「原始的な生態系」に該当すると考えられるものについては、その根拠となる考え方を明記すること。
- （注）人為的に創出された生態系（創出タイプ）は、植生や確認種によらず「原始的な自然生態系」には該当しませんので、ご注意ください。
- （※1）ここでの自然林は、植生自然度 9 の森林を指します。また、「効果が期待できる望ましい活動手法リスト」の生態系タイプ「森林-天然林」に相当します。なお、天然林は、主として自然に散布された種子等により成立し、維持される森林（里山林を除く）のこと（別紙 1「効果が期待できる活動手法」24ページ参照）。
- （※2）植生自然度とは、環境省生物多様性センターが実施している自然環境保全基礎調査において、植物社会学的な観点から、群落の自然性がどの程度残されているかを示す一つの指標として導入されている区分です。植生（群落）に対する見方のひとつであり、植生の評価には総合的な視点が必要であることに留意してください。本項では、植生自然度が 9・10 に区分されるものは、自然林・自然草原に該当すると整理しています。詳細については、6ページを参照ください。
- なお、「原始的な生態系」とは、過去、人為の影響を受けたことがない、または、実際には過去には多少の人手が入っていたとしても、現状はその痕跡が見えなくなっており、自然の遷移に委ねられている状態を指します。

○サイト詳細シートの記載事項

- 活動の目標として本項を選択した場合には、サイト詳細シートの該当ページ（サイトの生物多様性の状況）に以下についてご記入ください。
 - 場の概況
 - 主な植生
 - 植生自然度
 - 確認された主な動植物など
- 各項目の記入に当たっては、実施区域が、価値2の「原始的な自然生態系」に該当する旨の説明として十分であるようご注意ください。例えば、「場の概況」については、自然林、自然草原等の状況を含めてご説明ください。
- 回復タイプの場合は、回復が必要な状況であることが分かるように、場の概況を記入ください。



○サイト詳細シートの記載事項

- このほか、実施区域の写真（価値 2 については、例えば、自然林としての特徴が分かる写真、自然林に典型的に見られる動植物の写真）が必要です。写真番号、撮影年月、説明とともに該当ページの右欄に添付してください。また、撮影位置を「6. 写真の撮影位置」に示してください。
- なお、環境省作成の植生図については、植生図作成時点とのタイムラグにより現況の植生自然度が変化していることも想定されるため、ひとつの目安として活用し、現地調査等から得られた現在の植生状況を踏まえてください。

○添付資料（維持タイプのみ）

- 実施区域が本項の価値を既に有しているか確認するため、添付 2 「生物多様性の現況」として下表の資料を添付してください。なお、添付資料として、特に長文にわたる資料を用いる場合には、サイト詳細シートの該当欄に、対応箇所や該当ページを示すようにしてください。

a. 植生自然度を参考にする場合

添付資料の内容	様式
<div>➤ 最新版の1/25,000の現存植生図等で自然度9,10に該当していることが分かる資料</div> <div>➤ 区域で確認された動植物種の情報が分かる資料</div> <div>最新版の1/25,000現存植生図（正式名称：現存植生図2024）は、環境ジオポータルサイトからダウンロード可能です。 https://geoportal.env.go.jp/ あわせて現存植生図2024情報解説ページをご参照ください（随時更新）。 https://pl-moej.gisservice.jp/arcgis/apps/storymaps/stories/a366ce0b9e674e46872baac1ab34eb13 また、植生自然度は、生物多様性「見える化」マップでも確認可能です。 https://biodiversitymap.env.go.jp/portal/apps/experiencebuilder/experience/?id=4dd79a577e9f4b89bf27c2b31bd08828</div>	自由

別紙 2 生物多様性の価値

＜価値 2 原生的な生態系＞

添付資料の内容	様式
<p>「区域で確認された動植物種の情報が分かる資料」は、以下のとおりです。</p> <p>生物調査等によって、区域で確認された動植物種の種名が分かる資料（種リストを含む調査報告書等）。なお、次の情報もあることが望ましいです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 学名 • ライフステージ（成体・幼生等） • 確認された年月 • 調査手法 • 調査地点または各動植物種の確認地点 <p>なお、必要に応じ、添付資料の記入例もご参照ください。</p>	自由

b. 植生自然度以外で「原生的な生態系」に該当すると考えられるものの場合

添付資料の内容	様式
<p>➤ 原生状態が長期にわたり維持されていることが分かる資料</p> <p>➤ 区域で確認された動植物種の情報が分かる資料</p> <p>「区域で確認された動植物種の情報が分かる資料」は、以下のとおりです。</p> <p>生物調査等によって、区域で確認された動植物種の種名が分かる資料（種リストを含む調査報告書等）。なお、次の情報もあることが望ましいです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 学名 • ライフステージ（成体・幼生等） • 確認された年月 • 調査手法 • 調査地点または各動植物種の確認地点 <p>なお、必要に応じ、添付資料の記入例もご参照ください。</p>	自由

- なお、a.の場合の「植生自然度9,10に該当することが分かる資料」については、例えば、実施区域の現存植生図とともに、その凡例を読みとり植生自然度の区分にあてはめた資料を作成することが考えられます（植生と植生自然度の関係については、次ページで確認可能です）。
- また、「区域で確認された動植物種の情報が分かる資料」については、例えば、別紙3の14ページの記入例（区域内の動植物リスト）のような種リストを作成することが考えられます。
- bの場合の「原生状態が長期にわたり維持されていることが分かる資料」については、例えば、過去の状態が分かる写真や文献、土地利用の歴史、植生の調査データなどが考えられます。

別紙 2 生物多様性の価値

参考：植生と植生自然度の関係について

植生 自然度	区分内容	区分基準	備考	おもな凡例
10	自然草原	高山ハイデ、 風衝草原、自然 草原等、自然 植生のうち 単層の植物社会を形成する 地区	河辺の植生は 自然性の高い 草原のみを植 生自然度 10 とする。	コメバツガザクラ－ミネズオウ群集、キタダケ ソウ群落、コマクサーイワツメクサクラス、タ カネノガリヤス群落（北海道）、ササ群落 （Ⅱ）、シナノキンバイ－ミヤマキンポウゲ群 団、トウゲブキ群落、ササ群落（Ⅳ）、チシマ ザサ群落（Ⅳ）、オオヨモギ－オオイタドリ群 団、ハマナツメ群落、ハマジンチョウ群落、ツ ルコケモモ－ミズゴケクラス、ヌマガヤオー ダー、貧養地小型植物群落、セイタカヨシ群落、 ホザキシモツケ群落、ムジナスゲ－ヤチスゲ群 落、カワラハハコ－ヨモギ群団、ホソバハグマ －サツキ群集、ユキヤナギ群集、ヒルムシロク ラス、オニバス群落、アマモクラス、アッケシ ソウ群落、アイアシ群集、ハマナス群落、ハマ ニンニク－コウボウムギ群集、ハマニガナ－ク ロイワザサ群団、ハマオトコヨモギ－コハマギ ク群集、イソギク－ハチジョウススキ群集、ダ ルマガク－ホソバワダン群集、コメツツジ群落、 ススキ－イソツツジ群落、コウライシバ群落、 トゲイボタ群落、ヨシクラス、セイタカヨシ群 落、ツルヨシ群集、オギ群集
9	自然林	エゾマツ－ト ドマツ群集、 ブナ群落等、 自然植生のう ち低木林、高 木林の植物社会を形成する 地区	自然低木林は 植生自然度 9 とする。	コケモモ－ハイマツ群集、アカエゾマツ群集、 オオシラビソ群集、イトスゲ－トウヒ群落、マ イヅルソウ－コメツガ群集、ミドリユキザサ －ダケカンバ群団、ササ－ダケカンバ群落（北海 道）、チシマザサ－ブナ群団、カシワ群落 （Ⅳ）、トドマツ－ミズナラ群落、エゾイタヤ －ミズナラ群落、ヤマボウシ－ブナ群集、シラ キー－ブナ群集、モミーイヌブナ群集、イヌシデ －アカシデ群落、アカミノイヌツゲ－クロベ群 集、コカンスゲ－ツガ群集、ヒノキ群落、ヤマ タイミンガサ－サワグルミ群集、ハルニレ群落、 チャボガヤ－ケヤキ群集、ハンノキー－ヤチダモ 群集、ケショウヤナギ群落、ウラジロヨウラク －ミヤマナラ群団、ヒメヤシャブシ－タニウツ ギ群落、シラカシ群集、ミヤマシキミ－アカガ シ群集、イスノキー－ウラジロガシ群集、カナメ モチ－コジイ群集、ヤブコウジ－スダジイ群集、 タブノキ群落、イノデ－タブノキ群集、シキミ －モミ群集、イロハモミジ－ケヤキ群集、タマ アジサイ－フサザクラ群集、ハマボウ群落、マ サキ－トベラ群集、アカテツ－ハマビワ群集、 ガジュマル－クロヨナ群集、マングル－ブ群落、 ソテツ群落、アダン群団



別紙 2 生物多様性の価値

参考：植生と植生自然度の関係について

植生自然度	区分内容	区分基準	備考	おもな凡例
8	二次林 (自然林に近いもの)	ブナ・ミズナラ群落、シイ・カシ二次林等、代償植生であっても特に自然植生に近い地区	二次林のうち、全く自然ではないが長期間放置され大径木が多く構成種が豊富な地区は、植生の実態を踏まえて凡例を設定し植生自然度 8 とする。	ダケカンバ群落(Ⅲ)、オニグルミ群落(Ⅳ)、ブナ二次林、シラカシ屋敷林、ウバメガシ二次林、ボチョウジ・イジュ群落、ナガミボチョウジ・ヤブニッケイ群落、アカテツ・ハマビワ群集二次林、オオバエゴノキ・オオシマザクラ群集、ミネヤナギ・カラマツ群落、ブナ・ミズナラ群落、シイ・カシ二次林、アカガシ二次林、シリブカガシ二次林、タブノキ・ヤブニッケイ二次林、ヤマヤブソテツ・ヤブニッケイ群集、マサキ・トベラ二次林、ギョクシンカースダジイ群集、ケナガエサカキースダジイ群集二次林
7	二次林	クリ・ミズナラ群集、コナラ群落等、繰り返し伐採されている一般に二次林と呼ばれている代償植生地区		クリ・ミズナラ群集、オオバクロモジ・ミズナラ群集、フクオウソウ・ミズナラ群集、ウダイカンバ群落、リョウブ・ミズナラ群落、カシワ群落(Ⅴ)、ホソバヒカゲスゲ・コナラ群落、アカシデ・イヌシデ群落(Ⅴ)、ササ・シラカンバ群落、シラカンバ・ミズナラ群落、ミヤコザサ・ミズナラ群集、エゾムラサキツツジ・ミズナラ群落、ダケカンバ群落(Ⅴ)、ハクサンボク・マデバシイ群落、クリ・コナラ群集、クヌギ・コナラ群集、アベマキ・コナラ群集、ケネザサ・コナラ群集、ケクロモジ・コナラ群集、アカシデ・イヌシデ群落(Ⅶ)、アカメガシワ・エノキ群落、ヤマツツジ・アカマツ群集、モチツツジ・アカマツ群集、ユキグニミツバツツジ・アカマツ群集、ネズ・アカマツ群落
6	植林地	常緑針葉樹、落葉針葉樹、常緑広葉樹等の植林地、アカメガシワ等の低木林		落葉広葉低木群落、ナギ群落、ヒサカキ二次林、低木群落、アカメガシワ・カラスザンショウ群落、ハドノキ・ウラジロエノキ群団(二次林)、シマグワ群落、クサギ・アカメガシワ群落、モリヘゴ群落、スギ・ヒノキ・サワラ植林、アカマツ植林、クロマツ植林、エゾマツ植林、トドマツ植林、アカエゾマツ植林、カラマツ植林、モミ植林、ウラジロモミ植林、ヤチダモ植林、クヌギ植林、オオバヤシャブシ植林、オオシマザクラ植林、シラカンバ植林、マデバシイ植林、テリハボク植林、アカギ群落、ガジュマル群落、ヤブツバキ植林



別紙 2 生物多様性の価値

参考：植生と植生自然度の関係について

植生 自然度	区分内容	区分基準	備考	おもな凡例
5	二次草原 (背の高い草原)	ササ群落、ススキ群落等の背丈の高い草原、伝統的な管理を受けて持続している構成種の多い草原	都市河川のツルヨシ群集やオギ群集、耕作放棄地のセイタカヨシ群落等の人工的に造成された立地の群落は、植生の実態を踏まえて凡例を設定し植生自然度 5 にする。	ササ群落（Ⅲ）、チシマザサ群落（Ⅲ）、クマイザサ群落、タニウツギーノリウツギ群落、ヤマカモジグサーノリウツギ群集、ツシママコナーアセビ群集、レンゲツツジ群落、ヤマツツジ群落、オオマルバノテンニンソウーコバノクロヅル群落、チシマザサークマイザサ群落、スズタケ群落、ミヤコザサ群落、ハコネダケ群落、ナガボノシロワレモコウーエゾミヤコザサ群落、カワラマツバーススキ群落、風倒跡地植生、カンコノキ群落、センダン二次林、サキシマフヨウ群落、メダケ群落、リュウキュウチク群落、アズマネザサ群落、クズ群落、ハマゴウ群落（Ⅶ）、アズマネザサーススキ群集、ネザサーススキ群集、チガヤーススキ群落、ウラジローコシダ群落、ユノミネシダ群落、ハチジョウススキ群落（Ⅶ）、山火事跡地群落、ワラビ群落、ツルコケモモーミズゴケクラス（代償植生）、ミゾソバーヨシ群落、河辺一年生草本群落（タウコギクラス等）
4	二次草原 (背の低い草原)	シバ群落等の背丈の低い草原、伐採直後の草原、路傍・空地雑草群落、放棄畑雑草群落		シカ食害草原（Ⅱ）、オオバショリマーハンゴンソウ群落、ミヤコザサ矮生群落、ヤマアワマルバダケブキ群落、ツルキジムシローヤマヌカボ群落、シバ群団（Ⅴ）、ミヤマヌカボシウーイ群落、ヘビノネゴザ群落、オオヨモギ群落、ハンゴンソウ群落、イケマーハンゴンソウ群落、ヤマカモジグサーマルバダケブキ群落、バイケイソウーイワヒメワラビ群落、シカ食害草原、伐採跡地群落（Ⅴ）、シバ群団（Ⅶ）、コウライシバ群落（Ⅶ）、ハイキビ群落、シマスズメノヒエースズメノコビエ群落、マツカゼソウーイワヒメワラビ群落、キリシマアザミ群落、ゴルフ場・芝地、路傍・空地雑草群落、放棄畑雑草群落、放棄水田雑草群落
3	外来種植林 農耕地 (樹園地)	竹林、外来種の植林・二次林・低木林、果樹園、茶畑、残存・植栽樹群をもった公園、墓地等		フサフジウツギ群落、クスノキ植林、クスノキ群落、竹林、モウソウチク林、マダケ・ハチク林、ホウライチク・ホテイチク林、ダイサンチク林、カンザンチク群落、シチヘンゲ群落、外来種つる植物群落、アオノリュウゼツラン群落、サイザルアサ群落、河川砂礫地外来低木群落、外国産樹種植林、ギンネム群落、ニセアカシア群落、テーダマツ植林、モクマオウ類植林、ソウシジュ植林、ストロームマツ植林、イタチハギ吹付地、イタチハギ群落、果樹園、茶畑、常緑果樹園、苗圃、残存・植栽樹群をもった公園、墓地等、残存・植栽樹群地



別紙 2 生物多様性の価値

参考：植生と植生自然度の関係について

植生 自然度	区分内容	区分基準	備考	おもな凡例
2	外来種草原 農耕地（水 田・畑）	外来種の草原、 畑、水田等の 耕作地、緑の 多い住宅地		オオアワダチソウ群落、外来種二次草原、 セイロンベンケイ群落、ホナガソウ群落、 バラアサガオ群落、クサトケイソウ群落、 ハリケンススキ群落、ホクチガヤ群落、ハ タガヤーキバナヒメフウチョウソウ群落、 オニチカラシバ群落、河川砂礫地外来草本 群落、外来水草群落、オオハマガヤ群落、 牧草地、畑雑草群落、水田雑草群落、ワサ ビ田、緑の多い住宅地
1	市街地等	市街地、造成 地等の植生の ほとんど存在 しない地区		市街地、工場地帯、造成地、煙害跡裸地、 泥炭採掘跡裸地、干拓地

出典：環生多発第 1603312 号平成28年3月31日「1/2.5 万植生図を基にした植生自然度について」 添付資料 1「統一凡例（1/2.5 万植生図）の植生自然度区分」より作成<https://www.biodic.go.jp/event/2016/syokuseizu.pdf>



里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場としての価値

○ 対象

- 本項の対象は、以下のいずれかに該当する場合とします。
 - a. 動的・モザイク的な土地利用が行われた結果として、二次的自然に特有の生物相・生態系が成立した場を構成する農地、ため池、二次林・人工林、草原など
 - b. 従来のくらし・生業、新たな活動等、人の適切な関与がなければ劣化、消失のおそれがある身近な自然（社叢林などの林、ため池・自然水路、二次草原（半自然草原）、氾濫原・谷津田等の低地・湿地、里海等）
 - c. 二次林、二次草原（植生自然度 4, 5, 7, 8（※）を参考のひとつにできる）

（※）植生自然度は、植生（群落）に対する見方のひとつであり、植生の評価には総合的な視点が必要であることに留意してください。

「動的な土地利用」とは、例えば、一定のサイクルによる森林の伐採・更新など、農林業や資源採取のために時間的・周期的に環境の変化をもたらす土地利用のことを指します。

「モザイク的な土地利用」とは、農地、ため池、二次林・人工林、草原など様々なタイプの土地利用が全体としてモザイク構造をつくりだしていることを指します。ここでの二次林は、「効果が期待できる望ましい活動手法リスト」の生態系タイプ「森林-里山林」に相当します。

「二次的自然に特有の生物相・生態系」について、二次的自然に特徴的な種（※1）が確認されているかがポイントになります。

なお、二次的自然に特徴的な種については、「すこやかな日本の里を指標する生物たち-保全生態学研究室が提案する里地・里山の生物多様性指標種-角谷拓、須田真一、大谷雅人、西原昇吾、鷲谷いづみ,2009」も参考になります。

（※1）

里地里山に生息・生育する氷河期の遺存種の例：ミドリシジミ、オオミドリシジミ、ギフチョウ、シデコブジ、ハナシノブ、カタクリ、ヒメスゲなど・

里地里山に生息・生育する日本固有種の例：タナゴ、イタセンパラ、オニヤンマ、ヒカゲチョウ、ギフチョウ、ハナノキ、ササユリ、ウラシマソウ、ダルマガエル、アカハライモリ、アキアカネなど

里地里山に生息・生育環境する絶滅危惧種の例：メダカ、タガメ、ホクリクサンショウウオ、ハリヨ、スイゲンゼニタナゴ、クロシジミ、オオウラギンヒョウモン、ベッコウトンボ、ハナシノブ、アツモリソウ、デンジソウなど



里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場としての価値

○ サイト詳細シートの記載事項

- 活動の目標として本項を選択した場合には、サイト詳細シートの該当ページ（サイトの生物多様性の状況）に以下についてご記入ください。
 - 場の概況
 - 主な植生
 - 確認された主な動植物など
 - 各項目の記入に当たっては、実施区域が、価値 3 の「二次的な自然環境に特徴的な生態系」に該当する旨の説明として十分であるようご注意ください。例えば、「場の概況」については、上述a.~c.に相当する二次的な自然環境の状況を含めてご説明ください。
 - 回復タイプの場合は、回復が必要な状況であることが分かるように、場の概況を記入ください。
 - 創出タイプの場合は、創出前の状況が分かるように、場の概況を記入ください。
 - このほか、実施区域の写真（価値 3 については、例えば、里地里山の植生の特徴がわかる写真、里地里山で典型的に見られる種の写真）が必要です。写真番号、撮影年月、説明とともに該当ページの右欄に添付してください。また、撮影位置を「6. 写真の撮影位置」に示してください。
 - なお、環境省作成の植生図については、植生図作成時点とのタイムラグにより現況の植生自然度が変化していることも想定されるため、ひとつの目安として活用し、現地調査等から得られた現在の植生状況を踏まえてください。
- ##### ○ 添付資料（維持タイプのみ）
- 実施区域が本項の価値を既に有しているか確認するため、添付 2 「生物多様性の現況」として下表の資料を添付してください。なお、添付資料として、特に長文にわたる資料を用いる場合には、サイト詳細シートの該当欄に、対応箇所や該当ページを示すようにしてください。



別紙 2 生物多様性の価値

＜価値 3 里地里山＞

a. 「二次的自然に特有の生物相・生態系が成立した場を構成する農地、ため池、二次林・人工林、草原など」の場合

添付資料の内容	様式
<p>➤ 区域で確認された動植物種の情報が分かる資料 （区域内に複数のハビタットがある場合は、「各構成要素の配置が分かる図面（ゾーニング図）」も可能であれば提出）</p> <p>「区域で確認された動植物種の情報が分かる資料」は、以下のとおりです。 生物調査等によって、区域で確認された動植物種の種名が分かる資料（種リストを含む調査報告書等）。なお、次の情報もあることが望ましいです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 学名 • ライフステージ（成体・幼生等） • 確認された年月 • 調査手法 • 調査地点または各動植物種の確認地点 <p>なお、必要に応じ、添付資料の記入例もご参照ください。</p> <p>また、区域内に複数のハビタットがある場合は、それぞれのハビタットにおいて確認された種が整理されていることが望ましいです。その場合、区域のそれぞれのハビタット（農地、ため池、二次林…）の空間的な配置が分かる図面とセットで提出されると審査がし易いです。</p>	自由



b. 「従来のくらし・生業、新たな活動等、人の適切な関与がなければ劣化、消失のおそれがある身近な自然」の場合

添付資料の内容	様式
<p>➤ 区域で確認された動植物種の情報が分かる資料</p> <p>➤ 区域で行われてきた、二次的な自然環境の維持に寄与する活動を説明した資料</p> <p>「区域で確認された動植物種の情報が分かる資料」は、以下のとおりです。 生物調査等によって、区域で確認された動植物種の種名が分かる資料（種リストを含む調査報告書等）。なお、次の情報もあることが望ましいです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 学名 • ライフステージ（成体・幼生等） • 確認された年月 • 調査手法 • 調査地点または各動植物種の確認地点 <p>なお、必要に応じ、添付資料の記入例もご参照ください。</p> <p>「区域で行われてきた、二次的な自然環境の維持に寄与する活動を説明した資料」は、以下のとおりです。 申請区域でこれまで行われてきた活動を把握できる資料。なお、活動計画書にこれまで実施されてきた活動も併せて記載されている場合は、活動計画書で可です。</p>	<p>自由</p>



c. 「植生自然度を参考」として用いている場合

添付資料の内容	様式
<div>➤ 最新版の1/25,000の現存植生図で植生自然度 4, 5, 7, 8 に該当することが分かる資料</div> <div>➤ 区域で確認された動植物種の情報が分かる資料</div> <div>最新版の1/25,000現存植生図（正式名称：現存植生図2024）は、環境ジオポータルサイトからダウンロード可能です。 https://geoportal.env.go.jp/ あわせて現存植生図2024情報解説ページをご参照ください（随時更新）。 https://pl-moej.gisservice.jp/arcgis/apps/storymaps/stories/a366ce0b9e674e46872baac1ab34eb13 また、生物多様性「見える化マップ」でも確認可能です。 https://biodiversitymap.env.go.jp/portal/apps/experiencebuilder/experience/?id=4dd79a577e9f4b89bf27c2b31bd08828</div> <div>「区域で確認された動植物種の情報が分かる資料」は、以下のとおりです。 生物調査等によって、区域で確認された動植物種の種名が分かる資料（種リストを含む調査報告書等）。なお、次の情報もあることが望ましいです。<ul style="list-style-type: none">• 学名• ライフステージ（成体・幼生等）• 確認された年月• 調査手法• 調査地点または各動植物種の確認地点</div>	自由



- なお、c.の場合の「植生自然度4,5,7,8に該当することが分かる資料」については、例えば、実施区域の現存植生図とともに、その凡例を読みとり植生自然度の区分にあてはめた資料を作成することが考えられます（植生と植生自然度の関係については、6～9ページで確認可能です）。
- また、「区域で確認された動植物種の情報が分かる資料」については、例えば、別紙 3 の14ページの記入例（区域内の動植物リスト）のような種リストを作成することが考えられます。



＜価値 4 生態系サービスを提供する健全な生態系＞

生態系サービス提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場としての価値

○ 対象

本項の対象は、以下に該当する場合とします。なお、前者の「生態系サービス提供の場」であることのみではなく、その生態系サービスを発揮する基礎となる後者の「健全な生態系」に該当することが必要です。

例えば、安全な水・食料の確保や暮らしの安心・安全といった生態系サービス提供の場であり、在来の普通種を含む多様な動植物の生息・生育の場（周辺環境と比較して、多様な動植物の生息・生育の場も含むものとする。）であること

（注）生態系サービスの例は以下のとおりです。

- ① 調整機能（水源涵養、炭素固定、防災減災、ヒートアイランド緩和、その他気候変動適応に資する機能）
- ② 文化的機能（景観、観光、教育、都市内の緑地といった癒やし・レクリエーション）
- ③ 供給機能（食料、木材や原材料といった自然資源の利用）

一般的には、確認される動植物種の種数が多いことが望ましいため、「多様な動植物の生息・生育の場」であることを求めています（逆に、生態系が成り立ちにくい典型的な場合として、動植物種の種数が少ないことが挙げられます。なお、カッコ書にあるように、周辺環境と比較して多様である場合も認められています。これは、例えば、周辺では開発が進み都市化している状況の中で、残された緑地にその地域の種が生息・生育している生態系が成り立っている場合などが考えられます）。

その際、在来種を中心とした生態系が成り立ち、その場所・その地域の本来の生態系から乖離していないかが重要です。在来種であれば、希少種に限られるものではなく、いわゆる普通種で構いません。また、その地域の生態系に特徴的な種が確認されていることが望ましいです。

なお、例えば、本来、そのサイトの環境であれば確認されるべき種がまったく確認されない、逆に、そのサイトの環境であれば確認されないはずの種が確認されている、外来種が多く確認されている場合には、当該基準には合致しない蓋然性が高いです。



<価値 4 生態系サービスを提供する健全な生態系>

生態系サービス提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場としての価値

○ サイト詳細シートの記載事項

活動の目標として本項を選択した場合には、サイト詳細シートの該当ページ（サイトの生物多様性の状況）に以下についてご記入ください。

- 場の概況
 - 主な植生
 - 確認された主な動植物など
-
- ・ 各項目の記入に当たっては、実施区域が、価値 4 の「生態系サービスの提供の場」、「健全な生態系」に該当する旨の説明として十分であるようご注意ください。例えば、「場の概況」については、生態系サービスを提供している生態系やその要素の状況を含めてご説明ください。別途、様式2記入例もご参照ください。
 - ・ 提供している生態系サービスの内容等については、認定申請書様式 2 の「2. サイトの概要（生態系サービス）」にご記入ください。
 - ・ 回復タイプの場合は、回復が必要な状況であることが分かるように、場の概況を記入ください。
 - ・ 創出タイプの場合は、創出前の状況が分かるように、場の概況を記入ください。
 - ・ このほか、実施区域の写真（価値 4 については、例えば、サービスを提供している生態系、サービスの利用実態）が必要です。写真番号、撮影年月、説明とともに該当ページの右欄に添付してください。また、撮影位置を「6. 写真の撮影位置」に示してください。

○ 添付資料（維持タイプのみ）

- ・ 実施区域が本項の価値を既に有しているか確認するため、添付 2 「生物多様性の現況」として下表の資料を添付してください。なお、添付資料として、特に長文にわたる資料を用いる場合には、サイト詳細シートの該当欄に、対応箇所や該当ページを示すようにしてください。



添付資料の内容	様式
<p>➤ 区域で確認された動植物種の情報が分かる資料</p> <p>➤ 提供する生態系サービスの内容が分かる資料</p> <p>「区域で確認された動植物種の情報が分かる資料」は、以下のとおりです。 生物調査等によって、区域で確認された動植物種の種名が分かる資料（種リストを含む調査報告書等）。なお、次の情報もあることが望ましいです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 学名 • ライフステージ（成体・幼生等） • 確認された年月 • 調査手法 • 調査地点または各動植物種の確認地点 <p>「提供する生態系サービスの内容が分かる資料」についてはケースバイケースですが、例えば、調整サービスの場合には炭素固定量等の算出資料、文化的サービスの場合には観光・教育・レクリエーション等の活動の利用主体・時期・態様などの記録（写真含む）、供給サービスの場合には品目や生産量のデータなどが挙げられます。</p>	自由

- 「区域で確認された動植物種の情報が分かる資料」については、例えば、別紙 3 の14ページの記入例（区域内の動植物リスト）のような種リストを作成することが考えられます。
- 「提供する生態系サービスの内容が分かる資料」についてはケースバイケースですが、例えば、調整サービスの場合には炭素固定量等の算出資料、文化的サービスの場合には観光・教育・レクリエーション等の活動の利用主体・時期・態様などの記録（写真含む）、供給サービスの場合には品目や生産量のデータなどが挙げられます。



＜価値 5 伝統文化＞

伝統工芸や伝統行事といった地域の伝統文化のために活用されている自然資源の供給の場としての価値

○ 対象

- ・ 本項の対象は、伝統文化のために持続可能な活用がなされ、地域特有の当該自然資源が保全され続けている場が該当します。例として、以下のような観点で維持されている場が挙げられます。
 - 伝統的工芸品に用いる資材を供給する場
 - 地域の伝統的な生活文化を維持する上で用いる資材を供給する場
 - 神事や祭事に用いる資材を供給する場
 - 伝統文化の観点から景観等の自然的特徴を維持している場

○ サイト詳細シートの記載事項

- ・ 活動の目標として本項を選択した場合には、サイト詳細シートの該当ページ（サイトの生物多様性の状況）に以下についてご記入ください。
 - 場の概況
 - 伝統文化等の名称
 - 活用している自然資源
- ・ 各項目の記入に当たっては、実施区域が、価値 5 の「伝統文化のために活用」、「自然資源の供給の場」に該当する旨の説明として十分であるようご注意ください。例えば、「場の概況」については、活用されている自然資源の状況を含めてご説明ください。
- ・ なお、本項においては、資源の供給先である伝統文化に貢献していれば、自然資源の供給開始時期は問わないものとしております。
- ・ 実施されている資源の生産と生物多様性の関係性について学術研究等により把握されている場合は、その内容もご記入ください。
- ・ 回復タイプの場合（資源の供給が途絶えている場合）は、回復が必要な状況であることが分かるように、場の概況を記入ください。
- ・ 創出タイプの場合（将来供給される見込みだが実績がない場合）は、創出前の状況が分かるように、場の概況を記入ください。
- ・ このほか、実施区域の写真（価値5については、例えば申請サイトが供給する自然資源、供給先の伝統文化）が必要です。写真番号、撮影年月、説明とともに該当ページの右欄に添付してください。また、撮影位置を「6. 写真の撮影位置」に示してください。



- 添付資料（維持タイプのみ）
- ・

実施区域が本項の価値を既に有しているか確認するため、添付 2「生物多様性の現況」として下表の資料を添付してください。なお、添付資料として、特に長文にわたる資料を用いる場合には、サイト詳細シートの該当欄に、対応箇所や該当ページを示すようにしてください。

添付資料の内容	様式
<div>➤ 供給する自然資源及び地域の伝統文化の情報が分かる資料</div> <div>➤ 地域の伝統文化に活用されていることが分かる資料</div> <div>「供給する自然資源及び地域の伝統文化の情報が分かる資料」について、地域の伝統文化の情報については、文化庁の「国指定文化財等データベース」 （https://kunishitei.bunka.go.jp/bsys/index）や、各都道府県が公表している文化財に関するページ等が活用可能です。 「地域の伝統文化に活用されていることが分かる資料」は、以下の情報を資料に含めてください。<div><div>・</div>資源供給先の団体等の名称</div><div><div>・</div>供給開始時期</div><div><div>・</div>協定等を結んでいる場合はその期間等</div></div>	自由



＜価値 6 希少種＞

希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場としての価値

○ 対象

- ・ 本項の対象は、以下に該当する場合とします。
 - a. 環境省レッドリスト掲載種
 - b. 地方公共団体のレッドリスト又はレッドデータブックの掲載種
 - c. 法令・条例や行政文書において、希少性が高いと評価されている種
- c.に該当する種としては、例として以下が挙げられます。
 - ・ 環境省や自治体レッドリストへの掲載がされていない「種の保存法」における緊急指定種
 - ・ 市町村史や博物館の紀要等において、当該地域における希少性が示されている種

○ サイト詳細シートの記載事項

- ・ 活動の目標として本項を選択した場合には、サイト詳細シートの該当ページ（サイトの生物多様性の状況）に以下についてご記入ください。
 - 場の概況
 - 確認された希少種
- ・ 各項目の記入に当たっては、実施区域が、価値 6 の「希少な動植物種が生息生育している場」、その「可能性が高い場」に該当する旨の説明として十分であるようご注意ください。例えば、「場の概況」については、希少種やその生息・生育環境の状況を含めて、また、「確認された希少種」情報については、種名、学名、環境省や自治体のレッドリスト・レッドデータブックにおけるカテゴリー、成体・幼体といったライフステージ、確認された年月を含めてご記入いただくのが望ましいです（サイト詳細シートに書ききれない場合には、添付資料を含めてこれらの情報が示されていれば構いません）。
- ・ 回復タイプの場合は、回復が必要な状況であることが分かるように、場の概況を記入ください。
- ・ 創出タイプの場合は、創出前の状況が分かるように、場の概況を記入ください。
- ・ 対象となる希少種を人為的に移入している場合はそのことを明記するとともに、以下の情報もご記入ください。
 - ① 入手先、入手年月日、産地（複数回実施している場合は個別に情報を記載）
 - ② 当該種の繁殖の有無
- ・ このほか、実施区域の写真（価値6については、例えば申請区域内における希少種の個体、繁殖の状況、好適な生息・生育環境の状況）が必要です。写真番号、撮影年月、説明とともに該当ページの右欄に添付してください。また、撮影位置を「6. 写真の撮影位置」に示してください。



＜価値 6 希少種＞

- 添付資料（維持タイプのみ）
- 実施区域が本項の価値を既に有しているか確認するため、添付 2「生物多様性の現況」として下表の資料を添付してください。なお、添付資料として、特に長文にわたる資料を用いる場合には、サイト詳細シートの該当欄に、対応箇所や該当ページを示すようにしてください。

添付資料の内容	様式
<p>➤ 区域で確認された希少な動植物種の情報が分かる資料</p> <p>「区域で確認された希少な動植物種の情報が分かる資料」は以下のとおりです。</p> <p>生物調査等によって、区域で確認された希少な動植物種の次の情報が分かる資料（種リストを含む調査報告書等）。</p> <ul style="list-style-type: none">種名学名レッドリストのランクライフステージ（成体・幼生等）確認された年月調査手法調査地点または各動植物種の確認地点 <p>なお、必要に応じ、添付資料の記入例もご参照ください。</p> <p>なお、対象となる希少な動植物種を人為的に移入している場合、以下の情報を資料に含めてください。</p> <ul style="list-style-type: none">入手先、入手年月日、産地（複数回実施している場合は毎回）当該種の繁殖の有無	自由

- なお、「希少な動植物種の情報が分かる資料」については、例えば、別紙 3 の 14 ページの記入例（区域内の動植物リスト）のような種リストを作成することが考えられます。
- 特に、価値 6 の添付資料では、レッドリストのランクが必要であるほか、価値 2 ～ 4 等の「動植物種の情報が分かる資料」では必須ではない「学名」、「ライフステージ（成体・幼生等）」、「確認された年月」、「調査地点または各動植物種の確認地点」といった詳細な情報が求められることに留意が必要です（一部の種について詳細な情報が得られない場合には、そのように示していただいて構いません）。また、経年的な確認や繁殖の確認がある場合には、その旨もご記入いただくのが望ましいです。



＜価値 7 限定種＞

分布が限定されている、特異な環境へ依存するなど、その生態に特殊性のある種が生息生育している場又は生息生育の可能性が高い場としての価値

○ 対象

- ・ 本項の対象は、以下に該当する場合とします。
 - a. 分布が限定されている種
 - b. 特異な環境へ依存する種

なお、「分布が限定されている、特異な環境へ依存するなど、その生態に特殊性のある種」については、環境影響評価における特殊性の観点からの注目種が一つの参考となります。例として、自然環境研究センター（2002）では以下が示されています。

＜特殊な環境を特徴づける種・群集＞

- ・ 哺乳類では洞窟性、樹洞性のコウモリ類など
- ・ 昆虫類では洞窟性甲虫類など
- ・ 貝類では石灰岩地の陸産貝類など
- ・ 植物では、特殊な立地に生息する植物種・植物群落：湿地植生、蛇紋岩地植生、海岸砂丘植生、塩沼地植生、海岸断崖植生など
- ・ 河川のワンドに依存して生息するイタセンパラ
- ・ 河川の中の温水域に生息するチスジノリなど
- ・ 潮間帯上部の礫浜に見られる生物（ウシオグモなど）

＜比較的小規模で周囲には見られない環境を特徴づける種・群種＞

- ・ 溪流沿いの空中湿度の高い着生植物の多い斜面林
- ・ 湧水起源の限られた水域に生息するホトケドジョウなど
- ・ 水生植物が繁茂した動植物の豊かな池沼・ため池に見られる植物や水生昆虫など
- ・ 汽水域にごく一部残存するヨシ群落に生息するヒヌマイトトンボ
- ・ きわめて限定された清澄な水域に生息するカワゴケソウ科植物
- ・ 河口などの狭い範囲に生息する生物（エドハゼ、ハゴロモハゼなど）
- ・ 砂泥海域のごく一部に生息する岩礁の生物や海藻群落など



＜価値 7 限定種＞

○ サイト詳細シートの記載事項

- 活動の目標として本項を選択した場合には、サイト詳細シートの該当ページ（サイトの生物多様性の状況）に以下についてご記入ください。
 - 場の概況
 - 確認された分布限定種、特異な環境へ依存する種
- 各項目の記入に当たっては、実施区域が、価値 7 の「生態に特殊性のある種が生息生育している場」、その「可能性が高い場」に該当する旨の説明として十分であるようご注意ください。例えば、「場の概況」については、分布限定等種やその生息・生育環境の状況を含めて、「確認された分布限定種、特異な環境へ依存する種」については特殊性の内容とともに説明いただくなどが望ましいです。
- 「確認された分布限定種、特異な環境へ依存する種」については、分布が限定されている種の場合には、動植物種の名称と分布に関する情報（隔離分布を示している、申請区域が生息の南限にあたる、等）を、特異な環境へ依存する種の場合には、「特異な環境」に該当すると考えられる自然環境と確認された動植物種の名称を記入ください。
- その際には、種名、学名、成体・幼体といったライフステージ、確認された年月もご記入ください（サイト詳細シートに書ききれない場合には、添付資料を含めてこれらの情報が示されていれば構いません）。
- 回復タイプの場合は、回復が必要な状況であることが分かるように、場の概況を記入ください。
- 創出タイプの場合は、創出前の状況が分かるように、場の概況を記入ください。
- なお、対象となる分布限定等種を人為的に移入している場合はそのことを明記するとともに、以下の情報もご記入ください。
 - ① 入手先、入手年月日、産地（複数回実施している場合は個別に情報を記載）
 - ② 当該種の繁殖の有無
- このほか、実施区域の写真（価値 7 については、例えば申請区域内における特殊性のある種の個体、繁殖の状況、好適な生息・生育環境の状況）が必要です。写真番号、撮影年月、説明とともに該当ページの右欄に添付してください。また、撮影位置を「6. 写真の撮影位置」に示してください。



＜価値 7 限定種＞

- 添付資料（維持タイプのみ）
- ・ 実施区域が本項の価値を既に有しているか確認するため、添付 2「生物多様性の現況」として下表の資料を添付してください。なお、添付資料として、特に長文にわたる資料を用いる場合には、サイト詳細シートの該当欄に、対応箇所や該当ページを示すようにしてください。

添付資料の内容	様式
<p>➤ 区域で確認された特殊性のある動植物種の情報が分かる資料 （分布が限定されている種の場合、全国的な分布が分かる資料 （北限・南限の場合も含む）も可能であれば提出）</p> <p>「区域で確認された特殊性のある動植物種の情報が分かる資料」 は以下のとおりです。 生物調査等によって、区域で確認された特殊性のある動植物種の 次の情報が分かる資料（種リストを含む調査報告書等）</p> <ul style="list-style-type: none">・ 種名・ 学名・ ライフステージ（成体・幼生等）・ 確認された年月・ 調査手法・ 調査地点または各動植物種の確認地点 <p>なお、必要に応じ、添付資料の記入例もご参照ください。</p> <p>なお、対象となる特殊性のある種を人為的に移入している場合、 以下の情報を資料に含めてください。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 入手先、入手年月日、産地（複数回実施している場合は毎回）・ 当該種の繁殖の有無	自由

- ・ なお、「特殊性のある動植物種の情報が分かる資料」については、例えば、別紙 3 の 14 ページの記入例（区域内の動植物リスト）のような種リストを作成することが考えられます。
- ・ 特に、価値 7 の添付資料では、価値 2～4 等の「動植物種の情報が分かる資料」では必須ではない「学名」、「ライフステージ（成体・幼生等）」、「確認された年月」、「調査地点または各動植物種の確認地点」といった詳細な情報が求められることに留意が必要です（一部の種について詳細な情報が得られない場合には、そのように示していただいても構いません）。また、経年的な確認や繁殖の確認がある場合には、その旨もご記入いただくのが望ましいです。



＜価値 8 生活史＞

越冬、休息、繁殖、採餌、移動（渡り）など、動物の生活史にとって重要な場としての価値

○ 対象

- 本項に該当する例としては、典型的には大規模な渡り鳥の中継地や越冬地、またトキやコウノトリといった地域を代表する種の繁殖、採餌、ねぐら等に利用されている場所です。その他の動物種についても、繁殖、採餌、ねぐら等に利用され、その種の生活史にとって重要といえる場所であれば該当する場合があります。

○ サイト詳細シートの記載事項

- 活動の目標として本項を選択した場合には、サイト詳細シートの該当ページ（サイトの生物多様性の状況）に以下についてご記入ください。
 - 場の概況
 - 対象となる動物種とその動物種の生活史の内容
- 各項目の記入に当たっては、実施区域が、価値8の「動物の生活史にとって重要な場」に該当する旨の説明として十分であるようご注意ください。例えば、「対象となる動物種」と「生活史」の対応は明らかにしてご記入ください。また、特に「大規模な渡り鳥の中継地や越冬地」や「地域を代表する種」以外の「その他の動物種」を対象として申請いただく場合には、その動物種の生活史において実施区域が相対的に重要である理由を説明いただくなどが望ましいです。
- 回復タイプの場合は、回復が必要な状況であることが分かるように、場の概況を記入ください。
- 創出タイプの場合は、創出前の状況が分かるように、場の概況を記入ください。
- このほか、実施区域の写真（価値8については、例えば、申請区域における対象となる動物種の個体、その種の生活史における利用状況）が必要です。写真番号、撮影年月、説明とともに該当ページの右欄に添付してください。また、撮影位置を「6. 写真の撮影位置」に示してください。

○ 添付資料（維持タイプのみ）

- 実施区域が本項の価値を既に有しているか確認するため、添付2「生物多様性の現況」として下表の資料を添付してください。なお、添付資料として、特に長文にわたる資料を用いる場合には、サイト詳細シートの該当欄に、対応箇所や該当ページを示すようにしてください。



添付資料の内容	様式
<p>➤ 区域で確認された越冬、休息、繁殖、採餌、移動（渡り）などを行っている動物種の情報が分かる資料</p> <p>➤ 対象とする動物種が越冬、休息、繁殖、採餌、移動（渡り）などで申請区域を利用していることが分かる資料</p> <p>「区域で確認された越冬、休息、繁殖、採餌、移動（渡り）などを行っている動物種の情報が分かる資料」は次のとおりです。 生物調査等によって、区域で確認された対象となる動物種の種名が分かる資料 （種リストを含む調査報告書等）。なお、次の情報もあることが望ましいです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 学名 • ライフステージ（成体・幼生等） • 確認された年月 • 調査手法 • 調査地点または各動植物種の確認地点 <p>「対象とする動物種が越冬、休息、繁殖、採餌、移動（渡り）などで申請区域を利用していることが分かる資料」は、申請者により実施された生物調査結果の他に、NPOが公表している重要地域のリスト（KBA、IBA、マリーンIBA等）等も参考になります。</p>	自由



＜価値 9 緩衝・連続・連結性＞

既存の保護地域又はOECMに隣接する若しくはそれらを接続するなど、緩衝機能や連続性・連結性を高める機能を有する場としての価値

○ 対象

- 本項の対象とする「緩衝機能」「連続性」「連結性」とは、以下を指します。
なお、以下のいずれか1つを満たすことで当該基準に適合します。
 - a. 緩衝機能：保全すべき自然環境や優れた自然条件を有している地域（保護地域を想定しています）に対し、外部との相互影響を軽減するための機能
 - b. 連続性：対象とする生息地や生態系が物理的につながっている状態
 - c. 連結性：同一の生息地あるいは生態系間を利用する生物が当該空間を一時的に利用することで移動可能となっている状態
- 「緩衝機能を有する場」（「外部との相互影響を軽減するための機能」）に該当する可能性があるものの例としては、以下が挙げられます。
 - 核心となる保護地域に隣接する地域であり、核心となる地域のバッファーとしての機能を果たしている場（二次林等も含む）。必要な緩衝幅(認定の対象となる範囲の幅)は期待する効果により異なるが、50m を一つの目安とできる。
 - 保護地域等に対する外来種の侵入や、洪水・台風等による影響が、申請区域の存在により低減・防止されていることが核心となる地域における動植物種の調査により確認されている場
- 「連続性・連結性を高める機能を有する場」に該当する可能性があるものの例としては、以下が挙げられます。
 - 連結性評価モデル等により、地域の連結性向上に資すると客観的に示されている場
 - 行政文書や学術論文において連結性の指標種とされている種の利用が確認されている場

○ サイト詳細シートの記載事項

- 活動の目標として本項を選択した場合には、サイト詳細シートの該当ページ（サイトの生物多様性の状況）に以下についてご記入ください。場の概況
 - 場の概況
 - 主な植生
 - （緩衝機能の場合）隣接・接続する保護地域等
 - 緩衝機能や連続性・連結性の機能



<価値 9 緩衝、連続・連結性>

- 各項目の記入に当たっては、実施区域が、価値9の「緩衝機能や連続性・連結性を高める機能を有する場合」に該当する旨の説明として十分であるようご注意ください。例えば、緩衝機能については隣接・接続関係にある保護地域等、連続性・連結性については対象とする生物種、生息地または生態系を特定するなどして具体的に説明ください。
 - 回復タイプの場合は、回復が必要な状況であることが分かるように、場の概況を記入ください。
 - 創出タイプの場合は、創出前の状況が分かるように、場の概況を記入ください。
 - このほか、実施区域の写真（価値9については、例えば、実施区域において緩衝機能や連続性を有する特定の植生、連結性に関する特定の動植物種）が必要です。写真番号、撮影年月、説明とともに該当ページの右欄に添付してください。また、撮影位置を「6. 写真の撮影位置」に示してください。
- 添付資料（維持タイプのみ）
- 実施区域が本項の価値を既に有しているか確認するため、添付2「生物多様性の現況」として下表の資料を添付してください。なお、添付資料として、特に長文にわたる資料を用いる場合には、サイト詳細シートの該当欄に、対応箇所や該当ページを示すようにしてください。

a.緩衝機能の場合

添付資料の内容	様式
<p>➤ 隣接する保護地域等との位置関係が分かる図面</p> <p>➤ 申請区域及び隣接する保護地域等を含む植生図 （「区域で確認された動植物種の情報が分かる資料」も可能であれば提出）</p> <p>「隣接する保護地域等との位置関係が分かる図面」について、環境アセスメントデータベース（EADAS）で把握することが可能です。 https://www2.env.go.jp/eiadb/ebidbs/</p> <p>「申請区域及び隣接する保護地域を含む植生図」について、「最新版の1/25,000の現存植生図」を生物多様性センター「自然環境調査Web-GIS」上で確認可能です。 http://gis.biodic.go.jp/webgis/</p>	自由



b.連続性 及び c.連結性の場合

添付資料の内容	様式
<div>➤ 周辺に存在する緑地等との位置関係が分かる図面</div> <div>➤ 連続性・連結性を高める機能を有することが分かる資料 (連結性・連続性の機能評価について、指標種を用いている場合、その指標種の情報が分かる資料も提出) (「区域で確認された動植物種の情報が分かる資料」も可能であれば提出)</div> <div>「連続性・連結性を高める機能を有することが分かる資料」について、連続性・連結性を示す根拠となりうる情報は様々な例が考えられますが、以下に一例を示します。</div> <div><ul style="list-style-type: none">連結性評価モデル等を用いた分析結果定点カメラ等による、連結性の指標種等の利用に関する調査結果</div>	自由

